

令和6年度 加東市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 **認知症地域支援推進員：5名**

2 **認知症地域推進員の役割**

- ◇ 認知症の相談支援
- ◇ 認知症の早期発見・早期支援
- ◇ 認知症の人、その家族の居場所づくり
 - * 認知症カフェ・絆カフェの支援
 - * 若年性認知症の当事者・家族の会の活動支援
- ◇ 地域における支援体制の強化
 - * 認知症サポーターの養成講座
 - * 認知症高齢者の見守り・SOSネットワークの構築

加東市 認知症施策全体図



地域に出向き講座を開催しています



まちかど体操の様子
脳トレ追加で認知症予防にも！



ウォーキングをしながら認知症高齢者への声かけの方法を体験



イベントで相談コーナーを設置

予防と気づき

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ ホットミーティング（出前講座）
- ・ 物忘れ相談プログラムの実施

交流の場

- ・ かとうまちかど体操
- ・ 物忘れ予防カフェ
- ・ 回想法

見守り 家族支援

- ・ 認知症家族介護者のつどい
- ・ ひとり外出見守り・SOSネットワーク
- ・ わんわんパトロール
- ・ お出かけ安心GPS事業

相談先

- ・ 地域包括支援センター・
 ブランチ
- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症相談センター
- ・ 認知症疾患医療センター

～認知症の本人と家族のメッセージ～

認知症の本人や家族の気持ちを理解し 誰もが自分らしく暮らせるまちを目指して

認知症の人の気持ちに近く講演会

無料・申込不要



認知症の人と共に暮らす
温かいまちを目指して

認知症ケア 市民セミナー

R6年

9/7



加東市役所

講演

認知症の人や家族の気持ちを
理解した地域での関わり

講師 株式会社介護共育研究会代表

石川 立美子 氏

～介護を必要とする人も支える人も
共に楽しい生き方を考える～

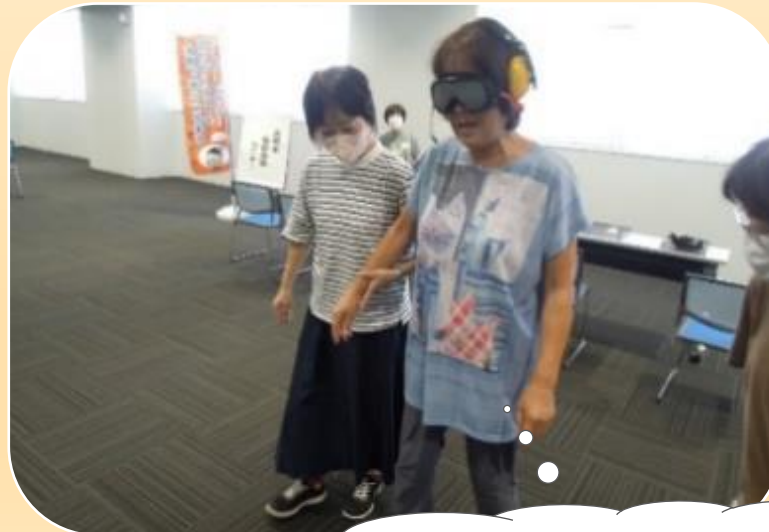


今回のセミナーは、認知症の本人や家族の気持ちの理解を深めることで、日々の地域での関わり方や自身のこれからの人生のあり方に活かしていけることを目的に地域づくりにつながる一歩として企画しました。一人一人が少しでも身近に感じていただけるよう動画や写真、体験を用いて、講演内容をさらに深められるよう工夫しました。

～認知症の本人と家族のメッセージ～

認知症の本人や家族の気持ちを理解し 誰もが自分らしく暮らせるまちを目指して

会場に「高齢者疑似体験コーナー」を設け、認知症だけではなく、高齢者の気持ちを感じていただく機会を作りました。体験した参加者からは、「こんなに大変だと思わなかった」「高齢者の気持ちがよく分かった」などの声が聞かれました。講演を聞く前に体験することで、少しでも高齢者の気持ち理解をした上で、学びを深めてもらいたいという講師からの提案でした。体験コーナーには、地域の介護予防サポーターが協力してくださいました。



～認知症の本人と家族のメッセージ～

認知症の本人や家族の気持ちを理解し 誰もが自分らしく暮らせるまちを目指して

一人一人に少しでも認知症の本人や家族の気持ちを感じていただけるよう
動画や写真を映像にして紹介しました。



ご自宅や施設を訪問



認知症のご本人や家族の方、ケアマネジャー等からお話を伺いました。

認知症であるご本人が昔の話や趣味の話进行いきいきと笑顔で話される様子が印象的でした。また、家族が日々様々なことに工夫をされている様子や、ケアマネジャーや事業所等周囲の関わり大切さがわかりました。



施設でも昔の話を何度も楽しそうに話される様子が印象的でした。毎日、レクリエーション等にも工夫をされ、例えば、おみくじでは、「毎日笑顔で過ごせたら大吉」などの言葉があり、おみくじを引いた方のうれしそうな表情の変化が写真に残されていました。



七夕など季節の行事も大切にされており、高齢者の方々の願いが飾られており、その様子は、ほっこり温かい気持ちになる映像でした。

認知症の本人や家族の気持ちを理解し 誰もが自分らしく暮らせるまちを目指して

認知症は、誰もがなるかもしれない身近な病気です。認知症について疾患の理解をし、早期に適切な対応を行うことが必要ですが、同じく認知症の本人や家族の気持ちを理解して接することも大切です。相手の気持ちを理解することは、自然と日々のサポートにつながり、認知症の本人だけでなく誰にでも優しいまちづくりにつながります。

認知症地域支援推進員として、今後も認知症の本人の声を大切にし、誰もが自分らしく暮らし続けることができるよう、関係者と協力しながら、一歩ずつ取り組みを進めていきたいと思えます。

